

論文

大阪ボタニカルガーデンツーリズムの提案

Proposal of botanical garden tourism in Osaka prefecture

小野健吉*
ONO Kenkichi

This paper discusses botanical garden tourism in Osaka Prefecture. The survey targeted four botanical gardens. In the management of each botanical garden, various events are carried out to promote the use of the garden depending on the characteristics, but an analysis of reviews on travel-related websites shows that the gardens are mainly used by local residents on a daily basis and are not visited by many tourists. However, Nagai Botanical Garden and Sakuya Konohana Kan Botanical Garden which are located in urban areas, can be expected to be used as tourism resources. The proposal of a tour visiting four botanical gardens of different types, or "Osaka Botanical Garden Tourism," as a model for garden tourism in Osaka Prefecture will also demonstrate the diversity of tourism in the prefecture.

キーワード：植物園 (botanical garden)、ガーデンツーリズム (garden tourism)、ボタニカルツーリズム (botanical tourism)、長居植物園 (Nagai botanical garden)、咲くやこの花館 (Sakuya Konohanakan botanical garden)

1. はじめに

大阪府は、1,905 km²の面積に約 880 万人の人口を有し、首都圏に次ぐ大都市圏である関西圏の中核をなす。周辺府県との県境付近などで自然環境が豊かに残る地域もあるが¹、大半は都市域とみなすことができる。

そうした都市域の中にあって「都会のオアシス」とも呼ばれるのが、大規模で緑豊かな公園である。大阪府においても、1903 年の第 5 回内国勸業博覧会敷地の東部を中心に開設された天王寺公園、大阪城跡を敷地とする歴史公園である大阪城公園、陸上競技場や植物園などを擁する総合公園の長居公園、堂島川・土佐堀川に挟まれた水辺公園の中の中之島公園、大阪府最古の公園としても知られる総合公園の浜寺公園、1970 年の大阪万博の跡地を公園とした万博記念公園、1990 年の国際花と緑の博覧会の会場となった鶴見緑地などが代表的な公園である。これらの公園は、大阪府民をはじめとする近隣住民の利用に供されるほか、ガーデンツーリズム (庭園観光)²の対象として観光客が訪れるケースもある。一方、関西圏の中心である大阪府には植物の展示公開を中心に栽培・園芸相談・研究等も目的とした植物園が、上記公園内のものも含め、開設されている。大阪市立長居植物園・大阪府立花の文化園・鶴見緑地咲くやこの花館・大阪公立大学附属植物園が大阪府下の代表的な植物園である。植物園は、公園・歴史的庭園・オープンガーデン・フラワーショーなどと並びガーデンツーリズムの主要な対象の一つである。また一方で、一カ所で多種類の植物が観賞できる施設として、自然環境のもとでの植物を楽しむ観光とともに、ボタニカルツーリズム (植物観光)³の主要な対象でもある。植物園は、ガーデンツーリズムおよびボタニカルツーリズム双方の対象として、海外では観光資源として重要な位置を占めることもある。とりわけ植物園の歴史の古いヨーロッパでは、歴史的文化遺産として世界遺産に登録されているキュー王立植物園 (イギリス:写真-1) やバドヴァ大学植物園 (イ

¹ 奈良県・和歌山県境の金剛生駒紀泉国定公園、兵庫県境の明治の森箕面国定公園、京都府・兵庫県境の大阪府立北摂自然公園および和歌山県境の大阪府立阪南・岬自然公園は、自然公園として自然環境の保全と利用が図られている。

² ベンフィールド [Benfield, R. W.] (2013, p.15) は、庭園観光 (garden tourism) を「通常居住地域を離れ、庭園 (garden) と一般に称する園芸的創作を有する場所において、思索的・教育的時間を購入し、眺め、過ごす旅行」と定義し、一般的にこれが受け入れられている。また、ベンフィールドは「植物園、歴史的庭園、ホテル・リゾート・遊歩道および個人か公共の所有する邸宅や庭園、ガーデンショーや園芸フェスティバル、地域的特色のある庭園」に焦点を当てるとしている。

³ ボタニカルツーリズム (植物観光) は、植物や植物相の鑑賞を目的とする観光全般を指す。植物が自然環境のなかで生育しているか、管理された環境 (植物園等) で生育しているかは問わない。 (https://en.wikivoyage.org/wiki/Botanical_tourism)

タリア)といった植物園もあり、観光資源としても大きな存在感を持っている。アジアにおいても、19 世紀のイギリス植民地時代のプランテーションに起源を持つシンガポール植物園は、世界遺産に登録され、シンガポール観光には欠かせないスポットとなっている。

日本の植物園に目を向けると、小石川植物園(東京都文京区)や森野旧薬園(奈良県宇陀市)といった江戸時代の薬草園にさかのぼる歴史を持つものもあるが、1924 年開設の京都府立植物園(京都市:写真-2)をはじめ、近代に都市の公共施設として開設されたものが大半を占める。緑豊かな心地よい環境と植物に関する知的好奇心などに応えてくれる植物園は、前述のとおり、ガーデンツーリズムとボタニカルツーリズムの双方の観点から、観光者の一定の支持を集めている。とはいえ、どちらかと言えば近隣住民による公園としての利用が中心であり、遠方からの観光者が訪れる観光資源としての位置付けが定着しているとは言い難い。この点では、上野動物園(東京都台東区)・旭山動物園(北海道旭川市)・アドベンチャーワールド(和歌山県白浜町)などが観光資源として多くの来園者を集める動物園には及ばないのが現状であろう。

本稿では、大阪府の主要な植物園とそこでの取り組みの概要を、現地調査ならびに公式ホームページ等をもとに示し、インターネットの旅行サイト等での口コミ投稿の分析を通じてその在り方について考えたうえで「大阪ボタニカルガーデンツーリズム」を提案したい。



写真-1 キュー王立植物園(筆者撮影)



写真-2 京都府立植物園(筆者撮影)

2. 大阪府の植物園の概要

(1) 大阪市立長居植物園

大阪市立長居植物園は、大阪市東住吉区所在の長居公園の中にある。長居公園はスポーツ施設や植栽を中心とするみどりの施設で構成される総合公園である。1974 年開園の植物園は、郷土の森・こどもの広場などとともにみどりの施設の一つである。植物園に隣接して、大阪市立自然史博物館がある。長居植物園は、大阪 Metro 御堂筋線長居駅および JR 阪和線長居駅から徒歩 10~15 分程度とアクセスは良好で、24.2ha という面積は京都府立植物園とほぼ同規模である。自然史博物館や花と緑の情報センターと一体となった都市型標準植物園として、大阪の自然を含め植物全般について多様な観点から知り、楽しむことができる施設となっている。園内の植物は約 1,200 種あり、長居の里山のほかツバキ園・ボタン園・バラ園・ハナショウブ園(写真-3)・ハーブ園など 11 区画の専門園で季節ごとの自然や花が楽しめる。運営については、指定管理者制度を一括導入している長居公園の 10 施設の一つとして、指定管理者が実施している。植物園における指定管理者の業務内容は、植物管理や施設の維持管理ならびに案内業務・入場料金徴収のほか、各種イベント開催や情報発信・広報等の利用促進などである。

庭園空間を多角的に楽しむガーデンツーリズムの観点では、大都市の大規模総合公園内にある有料施設の植物園として、公園内の他区画よりもゆったりとした時間を過ごせる植物に囲まれた非日常的空間との位置づけが可能で

ある。利用促進の一環で実施されているイベントとしては、今年度 (2023 年度) でみると、NHK 朝ドラにちなんだ「牧野博士ゆかりのスタンプラリー」、季節々々の植物を楽しむ「グラスフェア」「コスモスフェア」「草花観察ワークショップ」、植物園の空間を活かした「植物園ヨガ」「スロージョギング教室」などがあるが、どちらかと言えばこれらは大阪市民等の近隣住民を対象としたものと言えよう。一方、2022 年 7 月から実施されている夜間の有料デジタルアートイベント「チームラボ ボタニカルガーデン大阪」は、植物園空間を活かした夜間のアートイベントという希少性もあって観光者、とりわけ訪日外国人観光者からの人気が高い。この夜間のアートイベント効果もあって、2022 年度の入園者数は、開園以来はじめて 100 万人を超えたという⁴。

植物を楽しむボタニカルツーリズムの観点では、植物関連情報の基本となる園内の植物名プレートや説明板ならびにガイドツアーが重要である。植物名プレートについては、基本情報が簡略に記されたうえ、QR コードでより詳しい情報を得ることができるようになってきている (写真-4)。さらに、万葉植物には、万葉集の歌が記されたプレートがたてられている。一方、ガイドツアーは予約制の有料団体ツアーのみで、個人用のガイドツアーは行われていない。植物好きのボランティアガイドによるものでよいので、個人用のガイドツアーの実施が望まれる。



写真-3 長居植物園 ハナショウブ園 (筆者撮影)



写真-4 長居植物園 植物名プレート (筆者撮影)

(2) 鶴見緑地咲くやこの花館

咲くやこの花館は、大阪市鶴見区所在の大阪市の広域公園「鶴見緑地」内にある植物園で、大阪メトロ長堀鶴見緑地線鶴見緑地駅から徒歩 10 分の場所にある。鶴見緑地は 1990 年 4~9 月に「国際花と緑の博覧会」(花博) の会場となり、博覧会終了後には再整備されて「花博記念公園鶴見緑地」の呼称で広く親しまれている。大池を中心とする面積 123ha の敷地内には、咲くやこの花館のほか、ハナミズキホール (鶴見スポーツセンター)・日本庭園・韓国庭園など博覧会時のパビリオンや庭園が残されているほか、乗馬園や球技場等のスポーツ施設、バーベキュー広場などのレクリエーション施設、自然体験観察園など環境問題を学習する施設も新たに整備されている。咲くやこの花館は花博の際に大阪市のパビリオンとして建設された施設で、博覧会終了後も日本有数の都市型屋内植物園として公開されている (写真-5)。館内は、熱帯雨林植物室 (写真-6)・熱帯花木室・乾燥地植物室・高山植物室の主要 4 室にロータスガーデンやハイビスカスワールドなどが付設され、さらに屋外にはメディタレニアンガーデンやプティングリッシュガーデンなどがある。これらの区画で栽培展示されている植物は合わせて 5,500 種、約 15,000 株にのぼり、どの季節でも 300 種以上の花が観覧できる。このほか、展示会や音楽会を開催できるフラワーホールがあり、売店・レストランなども併設されている。運営については、上記の他の緑地内施設とともに、鶴見緑地全体が指定管理者制度により実施されている。

庭園空間を多角的に楽しむガーデンツーリズムの観点では、広大な園地で植物や庭園を楽しめる府内有数の広域

⁴ PRESS RELEASE 大阪市長居植物園・一般財団法人大阪スポーツみどり財団・チームラボボタニカルガーデン大阪実行委員会

公園・鶴見緑地の環境のなか、よく管理された状態で世界の様々な植物を多数観覧できる屋内植物園として、他の植物園との明確な差別化が可能である。魅力向上を目指して実施されているイベントとしては、今年度(2023年度)でみると、「大阪バラ祭 2023」「花蓮・睡蓮展」などの植物展示系、「山野草ボトルフラワー・ドライフラワーアレンジメント体験教室」などの体験講習会系のほか、夜間特別開館を含む様々なイベントがある。

植物を楽しむポタニカルツーリズムの観点では、植物に関する説明板の解説は充実しており、それらを利用したクイズラリーなども行われている。また、植物名プレートの記載内容も必要十分であろう。ただし、こうした説明板や植物名プレートは原則的に日本語のみであり、外国人の入園者も想定した取り組みとして英文対応も求められよう。具体的には、QRコード等による英文情報の提供が考えられる。また、専任スタッフによる無料のフラワーツアー(ガイドツアー)も1日2回行われており、筆者もこのフラワーツアーに参加した。専任スタッフによるツアーであるため、電子タブレットも用いながら珍しい植物の特徴等を詳しく解説するとともに、ドラゴンフルーツの試食や特徴のある花の匂いを嗅ぐなど、視覚や説明だけでなく、味覚や嗅覚も交えた体験型の充実した内容であった。にもかかわらず、平日であったためか参加者は3名(定員15名)と少なく、広報の充実等が望まれる。



写真-5 咲くやこの花館 外観(筆者撮影)



写真-6 咲くやこの花館 熱帯雨林植物室(筆者撮影)

(3)大阪府立花の文化園

大阪府立花の文化園は、大阪府河内長野市郊外の丘陵地にある植物園である。1990年4~9月に開催された「国際花と緑の博覧会」の理念である「花と人との関わり合いを理解する場所」として設置され、「花に憩う」「花に学ぶ」「花で交流する」の三つの基本方針のもと、1990年9月、約10haの府有地を敷地として開園した郊外型標準植物園である。傾斜のある地形を活かしながら、バラ園(写真-7)・クレマチス園・ボタン園・アジサイ園・梅園等の季節ごとの花が咲く各種ガーデンに加え、熱帯や乾燥地帯等の植物が一年中楽しめる大温室も設置されている。さらに、芝生広場・イベント広場・研修室やものづくりの場として使われる花の工房等のイベント対応施設が充実していることが特色となっている。また、ベンチやテーブル等が園内に多数設置され、レストランやカフェを備えるなど、ビジターフレンドリーな点も注目される。その立地からアクセスが問題となるが、公共交通機関は河内長野駅からのバスとなっており、やや利便性には欠ける。一方で、自家用車によるアクセスは、近接する道の駅「奥河内くろまろの郷」が駐車場として利用でき、良好と言える。運営については、指定管理者制度を導入しており、指定管理者は植物管理や施設維持管理等の基本業務のほか、園内の施設を利用して多様なニーズに対応するイベントを多く開催している。

庭園空間を多角的に楽しむガーデンツーリズムの観点では、自然に恵まれた周辺環境のなかで季節ごとの花を楽しむとともに、喧噪を離れゆったりとした時間を過ごせる非日常な空間との位置づけが可能である。イベントは、今年度(2023年度)でみると、「アイリッシュハーブ ワンコインコンサート」「フルーツデュオコンサート」などのコンサート系、「サツマイモ掘り体験」「はなぶんガラス工房」などの体験・ものづくり系、「寒蘭展」のような植物展示系といった多様なメニューが用意されており、良好な自然環境を活かした野鳥観察会や飲食系の「バラ園でカフェ」なども行われている。とりわけ、園内の花の工房等での多彩なものづくり系イベントが特徴である。

植物を楽しむボタニカルツーリズムの観点では、植物の種別ごとに植物に関する情報を提供する植物名プレートは簡易なものであり、説明板等の設備では退色・劣化により説明が読みづらいものも見られる。こうした植物名プレートや説明板については、適切な維持管理とともに、詳細情報を提供する QR コードの貼付等も望まれる。また、来園者が無料で参加できるガイドツアーは、今年 (2023 年) 9・10・11 月については、NPO 法人のボランティアガイドにより毎週土日に各 1 回実施されている (写真-8)。筆者が参加したガイドツアーでは、ガイドは単に植物名だけでなく植物学的知見や植物にまつわるエピソードも含めて解説を行っておりクォリティの高さを感じる一方、土曜日であったにもかかわらず参加者が 5 名と少なかったのは残念であった。



写真-7 花の文化園 パラ園 (筆者撮影)



写真-8 花の文化園 ガイドツアー (筆者撮影)

(4)大阪公立大学附属植物園

大阪公立大学附属植物園は、大阪府交野市の生駒丘陵北西部の尾根と谷が織りなす起伏に富む丘陵地に立地する。もと興亜拓殖訓練道場 (満蒙開拓団訓練所) の跡地に本植物園が創設されたのは 1950 年。25.5ha の敷地には、日本の代表的な樹林型を復元しているほか、世界各地の森林等も復元した郊外型森林植物園となっている。大学附属植物園という性格上、植物分類学・植物生理学・植物生態学・育種学等の研究を行なう施設であり、国内 5 つの国立大学で構成される植物研究拠点アライアンスのメンバーにもなっている。一方で、一般公開により大阪府民等の地域住民が植物に親しむ場あるいは憩いの場という役割も担っている。園内は、日本産の常緑広葉樹 (照葉樹)・落葉広葉樹・針葉樹約 250 種を集めた日本産樹木見本園や梅園・ツバキ山・サクラ山・カエデ山などに加え、世界各地の森林を再現した外国産針葉樹木園 (写真 9)・東アジア区・北アメリカ区・ユーラシア区・オーストラリア区などに区分されており、それらを巡る園路や広場、トイレなども設置されている。京阪交野線私市駅から徒歩 5 分程度と公共交通機関のアクセスは良好で、駐車場も付設されている。

庭園空間を多角的に楽しむガーデンツーリズムの観点では、丘陵地という立地ならびに草花よりも樹木が中心である構成から、里山ハイキング的な楽しみ方や森林についての学習の場としての利用が考えられる。他の植物園に比べると、自然に親しむことを求める来園者が多いものと思われる。

植物を楽しむボタニカルツーリズムの観点では、研究施設という性格上、樹林型に関する学術的説明板や樹木プレートなどは充実している。また、来園者が参加できるガイドツアーが週 2 回 (水・土)、大阪公立大学教員の解説による観察会も年 3 回程度行われているほか、シンポジウムなどの学術的イベントも随時実施されている。筆者が参加した園長 (教授) の解説による樹林型観察会は、30 分間の座学と 1 時間の園内観察で構成されており、専門的内容をわかりやすく解説するものであった (写真 10)。この観察会はホームページ上で広報されていたため 20 名余りの参加者があったが、平日午後だったこともあり、高齢者が比較的多かった。



写真-9 大阪公立大学附属植物園 外国産針葉樹木園 (筆者撮影)



写真-10 大阪公立大学附属植物園 観察会 (筆者撮影)

3. 旅行関連・地図情報ウェブサイトでの大阪府の植物園の評価等

本章では、旅行関連ウェブサイトであるトリップアドバイザー (以下、TA) の口コミと地図情報ウェブサイトであるグーグルマップ (以下、GM) のクチコミを参照して各植物園の評価や特色を明らかにする。表-1・2 は TA の口コミで、前者が投稿数と評価、後者が投稿者の居住地を集計したデータである。また、表-3・4 は GM のクチコミで、前者が投稿数と評価、後者がキーワード分類を集計したデータである。なお、キーワード分類は、当該キーワードについて否定的なコメント等も含むことに留意する必要があるが、概ね肯定的なコメントが多い。以下に、ウェブサイト口コミ (クチコミ) での各植物園の評価等を示す。

表-1 トリップアドバイザー (TA) 口コミ評価 (2023.11.13 閲覧)

	とてもよい (5)	よい (4)	普通 (3)	悪い (2)	とても悪い (1)	投稿数	平均評価
大阪市長居植物園	6	20	5	1	1	33	3.9
鶴見緑地 咲くやこの花館	26	33	6	0	0	65	4.3
大阪府立 花の文化園	6	15	2	0	0	23	4.2
大阪公立大学 附属植物園	7	10	1	1	0	19	4.2

表-2 トリップアドバイザー (TA) 口コミ投稿者居住地 (2023.11.13 閲覧)

	日本					海外				合計
	大阪府	近畿地方	その他	不明	小計	アジア	欧米豪	その他	小計	
大阪市長居植物園	14	4	5	3	26	1	3	1	5	31
鶴見緑地 咲くやこの花館	24	8	14	6	52	10	3	0	13	65
大阪府立 花の文化園	14	4	3	2	23	0	0	0	0	23
大阪公立大学 附属植物園	9	2	1	5	17	0	2	0	2	19

表-3 グーグルマップ (GM) クチコミ投稿数と評価 (2023.11.9 閲覧)

	大阪市立 長居植物園	鶴見緑地 咲くやこの花館	大阪府立 花の文化園	大阪公立大学 附属植物園
クチコミ投稿数	2,122	2,086	466	396
平均評価	4.3	4.2	4.1	4.2

表-4 グーグルマップ (GM) クチコミのキーワード* (2023.11.9 閲覧)

	キーワード*	大阪市立 長居植物園	鶴見緑地 咲くやこの花館	大阪府立 花の文化園	大阪公立大学 附属植物園
植物	バラ	90	1	23	—
	アジサイ	77	1	5	1
	ネモフィラ	64	—	—	—
	ヒマワリ	46	1	1	—
	ダリア	18	—	1	1
	コスモス	20	2	—	5
	ウメ	9	—	17	4
	メタセコイア	1	—	2	14
	サクラ	17	1	6	12
	ハス	10	16	1	1
	バナナ	—	8	2	—
	ケシ	—	7	—	—
	カカオ	—	17	—	—
	スイレン	3	3	—	2
	食虫植物	—	57	1	—
	高山植物	—	42	—	—
	樹木	5	2	1	9
	熱帯	—	41	2	2
紅葉	5	3	5	10	
自然	自然	27	9	13	42
	四季	14	3	11	8
	山	2	—	5	14
施設等	自然史博物館	26	—	—	—
	温室	2	98	29	1
	広場	6	3	9	5
	道の駅	—	—	23	—
	駐車場	16	15	30	11
	キッチンカー	5	2	10	—
その他	イベント	28	84	21	4
	スタンプラリー	8	1	5	—
	イルミネーション	6	—	29	—
	パスポート	4	3	5	2
	お弁当	27	7	10	16
	癒し	4	10	1	6

*キーワードは、グーグルマップのクチコミ検索を用い、各植物園において出現数が上位のものを中心に抽出した。そのため、「紅葉」や「自然」のようななどの園でも出現するキーワードがある一方、大阪市立長居植物園の「自然史博物館」や大阪府立花の文化園の「道の駅」のような他園では出現しないキーワードもある。

(1) 大阪市立長居植物園

大阪市立長居植物園に関する投稿数は TA が 33 件、GM が 2,122 件であり、特に GM の投稿数が多い。その平均評価は、TA では 3.9、GM では 4.3 と、比較的高評価と言える（いずれも 5 段階評価。数値が大きい方が高評価）。TA の居住地分類では、日本居住者が 26 件、海外居住者が 5 件。日本居住者のうち地元である大阪府と近畿地方があわせて 18 件となっている。旅行関連サイトであることから地元・近接地からの投稿比率が低い傾向にある TA においても地元・近接地の比率が全投稿数の 58% と高く、遠方および海外からの観光者がそれほど多くないことが窺える。また、GM のキーワード分類では、バラ 90 件・アジサイ 77 件・ネモフィラ 64 件といった個別の植物名が多い。隣接する自然史博物館も 26 件あり、植物園と博物館が一体的に利用されている様子も窺える。さらに、イベントも 28 件と比較的多かった。チームラボの夜間イベントについては、イルミネーションとイベントの項目で合わせて 11 件の投稿がある。

(2) 鶴見緑地咲くやこの花館

鶴見緑地咲くやこの花館に関する投稿数は TA が 65 件、GM が 2,086 件である。その平均評価は、TA では 4.3、GM のでは 4.2 と、他の植物園に比べても高評価である。とくに TA の口コミでは、投稿数 65 件のうち評価 5 が 23 件と 40% に上る。TA の居住地分類では、日本居住者 52 件、海外居住者が 13 件。日本居住者のうち地元である大阪府と近畿地方があわせて 32 件、その他地域が 14 件となっており、他の植物園に比べると遠方および海外からの来園者が多い傾向が読み取れる。また、GM のキーワード分類では、当然ながら温室が 98 件と多く、関連して食虫植物 57 件・高山植物 42 件・熱帯 41 件、個別植物でもスイレン 17 件・ハス 16 件・ケシ 8 件・カカオ 7 件と、本館の独自性が際立つ。

(3) 大阪府立花の文化園

大阪府立花の文化園に関する投稿数は TA が 23 件、GM が 466 件である。その平均評価は、TA では 4.2、GM では 4.1 と、比較的高評価と言える。TA の居住地分類では、日本居住者が 23 件、海外居住者は 0。日本居住者のうち地元である大阪府と近畿地方があわせて 18 件となっており、地元・近接地からの来園者が大半を占める。また、GM のキーワード分類では、温室 29 件とイルミネーション 29 件が多い。イルミネーションは秋から冬の実施で各種メディアでも取り上げられていたが、2023 年度は実施されていない。個別の植物ではバラ 23 件・ウメ 17 件が目立つ程度で、ほかに自然 13 件・四季 11 件などの投稿がある。近くにある道の駅と道の駅付設の駐車場についての投稿が多いのは、自家用車で来る人が多いためであろう。

(4) 大阪公立大学附属植物園

大阪公立大学附属植物園に関する投稿数は TA が 19 件、GM が 396 件である。その平均評価は、TA では 4.2、GM では 4.2 で、比較的高評価と言える。TA の居住地分類では、日本居住者が 17 件、海外居住者は 2 件。日本居住者のうち地元である大阪府と近畿地方があわせて 11 件であるが、不明が 5 件と多いため、遠方からの来園者が相対的に多いかどうかはわからない。また、GM のキーワード分類では、自然 42 件・山 14 件・紅葉 10 件・樹木 9 件などが目立ち、個別植物でもサクラ 12 件、群植されたメタセコイア 14 件と樹木が上位に並ぶなど、森林植物園という特色がよく表われている。

4. まとめ

関西圏の中心であるとともに古代からの歴史を持つ大阪府の観光というと、アミューズメント施設を含む都市施設や町歩きを対象としたアーバンツーリズム（都市観光）⁵、歴史遺産を対象としたヘリテージツーリズム（文化遺

⁵ 代表的な観光スポットとして、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、あべのハルカス、梅田スカイビル、海遊館、通天閣・新世界、グランフロント大阪、御堂筋などがあげられる。

産観光)⁶、さらに独特の食文化のなかで育まれた飲食を楽しむフードツーリズム (飲食観光)⁷などがまず思い浮かぶ。ガーデンツーリズム (庭園観光) も、やや影が薄いとはいえ、万博記念公園や慶沢園⁸などは観光者も多く訪れるスポットとなっている。

本稿で取り上げた植物園は、大阪市立長居植物園が都市型標準植物園、鶴見緑地咲くやこの花館が都市型屋内植物園、大阪府立花の文化園が郊外型標準植物園、大阪公立大学附属植物園が郊外型森林植物園と個性的であり、それぞれでガイドツアーや各種イベント開催等の運営面の工夫もなされている。旅行関連・地図情報ウェブサイトで口コミ投稿をみると、近隣・近接地住民のピクニックを含む日常的利用 (余暇利用) が多く、遠方や海外からの観光者の来園はさほど多くはないように見受けられ、とくに郊外型の植物園はその傾向が強い。そうしたなか、温室が中核となるという国内でも数少ない屋内植物園である鶴見緑地咲くやこの花館については観光者の観光目的地となるポテンシャルが高く、また、大阪市内にあって交通の便もよい大阪市立長居植物園は、夜のイルミネーション・エンターテイメントとして人気の高い「チームラボ ボタニカルガーデン大阪」などによる観光的活用が期待される。

植物園を観光資源として積極的に活用することが必須というわけではないが、大阪府におけるガーデンツーリズムの一つのモデルとしてタイプの違う 4 つの植物園を巡る「大阪ボタニカルガーデンツーリズム」を提案しておくことは、大阪府の観光の多様性に貢献することにもなる。この大阪ボタニカルガーデンツーリズムの推進にあたっては、ガイドツアーや植物名プレート・説明板などの植物関連情報の充実といった植物に親しむボタニカルツーリズムに対応する側面を強化するとともに、それぞれの植物園としての独自の空間を活かした適切な体験イベントや夜間イベントなどの運営面での積極的な取り組みが望まれる。さらに、将来的には本稿で取り上げた 4 植物園以外の大阪府内の植物園 (公園内植物園区画) や京都府立植物園・神戸市立森林植物園といった近隣府県の植物園とも連携しながら、これまで余り注目されてこなかった京阪神の植物園の魅力を提示し、植物好きな国内外の多く観光者の来園を促進することの意義は決して小さくないと考える。

【引用・参考文献】

Benfield, R. W. (2013) *Garden Tourism*, Cab Intl

Botanical tourism https://en.wikivoyage.org/wiki/Botanical_tourism : 最終閲覧 2023.11.9

PRESS RELEASE 大阪市立長居植物園・一般財団法人大阪スポーツみどり財団・チームラボボタニカルガーデン大阪実行委員会
<https://botanical-garden.nagai-park.jp/botanical/wp-content/uploads/2023/04/4e5b7c88a23fdd41dc7bce6f41dacd28.pdf>: 最終閲覧 2023.11.13

大阪公立大学附属植物園公式ホームページ <https://www.omu.ac.jp/bg/> : 最終閲覧 2023.11.9

大阪市立咲くやこの花館公式ホームページ <https://www.sakuyakonohana.jp> : 最終閲覧 2023.11.9

大阪市立長居植物園公式ホームページ <https://botanical-garden.nagai-park.jp> : 最終閲覧 2023.11.9

大阪府立花の文化園公式ホームページ <https://hanabun-osaka.witc-pm.jp> : 最終閲覧 2023.11.9

グーグルマップ大阪公立大学附属植物園 <https://www.google.co.jp/maps/place/大阪公立大学附属植物園/@34.7642229,135.6790163,17z/data=!4m8!3m7!1s0x600118d6983a88e5:0x1d251fe59fcb274c!8m2!3d34.7642185!4d135.6815966!9m1!1b1!16s%2Fm%2F03c0920?entry=tту> : 最終閲覧 2023.11.9

グーグルマップ大阪市立咲くやこの花館 <https://www.google.co.jp/maps/place/咲くやこの花館/@34.7100478,135.5709911,17z/data=!4m8!3m7!1s0x6000e045619fa765:0x5f592a17b9bd5b63!8m2!3d34.7100434!4d135.5735714!9m1!1b1!16s%2Fm%2F03c5hvp?entry=tту> : 最終閲覧 2023.11.9

グーグルマップ大阪市立長居植物園 https://www.google.co.jp/maps/place/大阪市立長居植物園/@34.6126809,135.5211878,18z/data=!4m10!1m2!2m1!1z6ZW35bGF5qSN54mp5ZyS!3m6!1s0x6000dc2695990a89:0x4efc58088c786856!8m2!3d34.6113141!4d135.5226211!15sCg_plbflsYXmpI3nianlnJJaEilQ6ZW35bGFIOakjeeJqeWckpIBEGJvdGFuaWNhbF9nYXJkZW7gAQAl16s%2Fm%2F03c5_5n?entry=tту : 最終閲覧 2023.11.9

グーグルマップ大阪府立花の文化園 [https://www.google.co.jp/maps/place/大阪府立花の文化園\(植物園\)/@34.4350641,135.550636,17z/data=!4m8!3m7!1s0x6000d44580013e17:0x243e9b724b8b5558!8m2!3d34.4350597!4d135.5532163!9m1!1b1!16s%2Fm%2F05c02rk?entry=tту](https://www.google.co.jp/maps/place/大阪府立花の文化園(植物園)/@34.4350641,135.550636,17z/data=!4m8!3m7!1s0x6000d44580013e17:0x243e9b724b8b5558!8m2!3d34.4350597!4d135.5532163!9m1!1b1!16s%2Fm%2F05c02rk?entry=tту) : 最終閲覧 2023.11.9

⁶ 百舌鳥・古市古墳群、大阪城 (公園)、住吉大社、四天王寺などがあげられる。

⁷ お好み焼き・たこ焼きといった「コナモン」だけでなく、割烹や地元産品を活かしたレストランなども大阪のフードツーリズムを支える。代表的な観光スポットとしては、例えば道頓堀、黒門市場などがあげられる。

⁸ 大阪市天王寺区所在の回遊式日本庭園で、施工は小川治兵衛。住友家本家の庭園として 1918 年に完成し、1925 年に本邸などととも大阪市に寄付された。現在は天王寺公園のなかの有料施設として公開されている。

- トリップアドバイザー大阪公立大学附属植物園 https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g1023539-d1407188-Reviews-Botanical_Gardens_Faculty_of_Science_Osaka_City_University-Katano_Osaka_Prefectu.html：最終閲覧 2023.11.13
- トリップアドバイザー大阪市立咲くやこの花館 https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g298566-d1425049-Reviews-Sakuya_Konohanakan-Osaka_Osaka_Prefecture_Kinki.html：最終閲覧 2023.11.13
- トリップアドバイザー大阪市立長居植物園 https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g298566-d10507742-Reviews-Nagai_Botanical_Garden-Osaka_Osaka_Prefecture_Kinki.html：最終閲覧 2023.11.13
- トリップアドバイザー大阪府立花の文化園 https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g1023521-d1407194-Reviews-Osaka_Prefecture_Flower_Garden-Kawachinagano_Osaka_Prefecture_Kinki.html：最終閲覧 2023.11.13